

## 町税は納付期限内に 納付しましょう

町民の皆さんに納めていただいている町税（住民税・固定資産税・軽自動車税）は、皆さんの暮らしを支える町の貴重な財源となっています。

納税は、期限内納付が原則です。町税を未納のままにしている方には、期限内に納付している方との公平性を保つため、延滞金が加算されます。また、電話や文書による催告を行い、応じない方については、税法に基づき資産等（土地・建物・預貯金・給与・生命保険・自動車）の差押えを行います。

なお、特別な事情により納付にお困りの方は、未納のままにせず税務課収納対策室へご相談ください。

**問合せ** 税務課 収納対策室

☎029 - 288 - 3111

(内線121, 122)

平成21年4月～22年3月  
の差押え実績

区分	差押件数
預貯金	28件
不動産	33件
生命保険	25件
合計	86件

おでかけください！

## ●● 城里町健康増進施設 ●● 「ホロルの湯」

**料金** 平日大人800円、小人400円  
土・日・祝日大人1,000円、小人500円  
午後5時以降大人500円、小人300円

**営業時間** 午前10時～午後9時

**休館日**

毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

「12回半額利用券」をご利用ください！

町内在住の方は、「12回半額利用券」を利用すると通常料金の半額で施設を利用することができます！

**申請方法** 本人確認書類（運転免許証・健康保険証）を持参し、受付で申請を行ってください。

※無料送迎バスを運行しています。運行時間等はお問い合わせください。

**問合せ** ホロルの湯 ☎029 - 288 - 7775

## 文芸しるさと

### 短歌

如月の十六夜の月蒼く冴え世の殺戮を知るや知らずや 青柳 京子  
触れてすぐ消えゆくいのち春を降る雪はやさしくただに憐く 渡辺千紗子  
如月の庭に咲き出す福寿草春は名のみ冷え込みつづく 秋山 愛子  
梅の花日毎に満ちて春めけり 野菜の種まき心して待つ 山形 式妙  
萌ゆる季迎ふる日々の弾みるる生活に在りてさくら又咲く 大森 久子  
何事も無くひと日過ぎしはありがたし明日への希望老に湧きくる 佐川 あや  
御先祖の墓参りはいつも日暮れ刻勤務すませてからの父にて（書き思ひ出） 杉山みちこ

### 俳句

山びこの里のヤッホー山笑ふ 寺門 孝子  
初燕フェンスの高き小学校 高橋 芦江  
桃咲いて草取る庭の明るかり 一杉 常子  
花冷えや天ぶらの海老大きかり 竹内 幸子  
風音のほかは聞こえず桜散る 森 静江  
登る程花の色濃き桜山 仲田まちる  
山盛りの金柑を食べ皆元氣 飯村 昭子

久々に続け降りたる大雪に幼な日甦る亡き母のむね 宮本ふみ江  
フィギュアの高橋大輔銅メダル胸に輝やかせバンクローパーに立つ 所 美恵子  
八十路越え同窓会の席に行き語るも楽し共に老いてか 阿良山ウメノ  
風呂に入り鳴く鶯の声聞けば心ゆたかに老いを楽しむ 岩下美智野  
春がすみたちこむ朝の庭先に句いかにぐわし白梅の花 鶴田 すが  
いつの日かカタクリ草の群生を夢見つ植えて三十年すぎ 藺部 光子  
老いて尚白銀の世に生きられるグランドゴルフに若さを戻し 仲田 こう  
窓を開け空を眺めて又一句それが私の人生航路 富田 欽子

桜花いつ咲くかしら梢見る 中野千賀子  
本殿は崖の上なり鳥帰る 鯉淵寿美恵  
たんぼぼや老いは脛より忍びき 今瀬多代美  
菜種梅雨気温下りて雨きざす いそべきよ  
大地の気満たして開き露の臺 田所 厚子  
小鳥来て春菜の先を啄めり 高山 ヒサ  
風薫るミニ会席の花の膳 瀬谷 博子  
忘れぬ一夜濡らせし春の雨 岩下 金司  
春障子夢二の得手発けそう 田口 勝元

### 川柳

早春の雪の衣や梅の花 東見登美子  
古郷の懐かしきかな春祭り 市川 義子  
宇宙には縁なき妻とメザシ焼く 富田 多蔵  
仏壇に供えて今日も家を出る 青木新三郎  
マドラーと唱うロックのカウンター 永井 英陽  
枝下ろし感謝する木の声がする 中島 芳春  
この頃は地産地消のレストラン 山本 隆荘

新聞の異動の記事もなつかしき過去と知りつつ気になる季節 枝 不美  
独り言つぶやく所作の増えたり亡母聞きませといふにあらねど 片見 和枝  
丹精して四季折々に花の咲く小庭は孤独なわれの楽園 川上千代子  
帰省する度に持ち来る孫の土産物春の陽受けて夫と食みたり 島 愛子  
阿弥陀寺の枝垂れのもとを訪ひて三百年とふいのち拝む 多田志保子  
八十路すぎ生かされいるをありがたし亡夫の分まで生きゆく思いを 坪井きよ子  
嫁ぎ来て義父母看取り今孫に恵まれ仰ぐ庭のユズリ葉 萩谷登喜子  
風邪ひかず転ばぬ様にと心こめし師よりの便り途絶えて六月となりぬ 富田佐智子